

「現在の国語教育に求められる授業づくりと学習評価」

- ・「評価」と聞いて何を感じるか。(参加者に問いかける) → (－) テスト、成績、難しい、大変…
(－) 話題に出しにくい、触れにくいもの…
(＋) 授業、学習改善・授業改善、楽しみ
プラスのイメージにするにはどうしたらいいのか

I 全国・学力学習状況調査より

(結果)・中3国語 本県7位

- ・読書や対話重視成果→「国語が好き」県内小中6割超え
→評価が「これから自分はどうしたらいいのか、伸びるのか」に生かせる
→もっと「国語が好き」を増やす要素になる

【小・中学校】知識・技能 全国平均↓(漢字学習に課題…)

思考・判断・表現 全国平均↑

◎成果 思考力判断力表現力の育成、記述力の向上

△課題 知識及び技能の定着、漢字の定着

【学校質問紙調査より】

- ・自分の考えが伝わるように表現の効果を考えて文章を書く指導を行ったか(中3)
指導者は高く自己評価をしたが、正答率は49.7%、無答率も15%だった
→指導の改善…評価の必要性

II 指導と評価の一体化についての再確認

- ・学習評価の基本的な考え方

「学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するもの」

① 教師の指導改善

評価の結果によってのちの指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価すること
→指導に生かす評価(評価は一度きりではない)

② 児童生徒の学習改善

自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすること

→自己評価、他者評価によって学習が改善できる(何ができる/できないの自覚を促す)

③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

【評価の妥当性・信頼性】

- ① 妥当性…評価方法が測りたい学力を確かに測っているかどうか。指導したことを評価しているか。
→指導と評価の整合性を図る
- ② 信頼性…誰が何度測っても同一の結果が出ること。
→学校として組織的・計画的に取り組むことが大切

【妥当性・信頼性を高める工夫例】

- ・実践事例の蓄積・共有 評価基準・方法の検討、明確にすること
- ・評価に関する仕組みについて学校が児童生徒・保護者に事前に説明し、理解を図ること
→共有することで学習効果が高まる

【評価の目的・機能】

指導に生かす評価（形成的評価）…学習の途中で実施し、教師の指導回線や児童生徒の学習改善
「学習のための評価」

記録に残す評価（総括的評価）…実現状況が把握できる段階で実施し、学習状況や成果の要約と成績の決定等
での利用「学習の評価」

→児童生徒自身による学習改善に向けて

（自覚を促す、学習を生かすために教師の的確なフィードバックが求められている。）

例：書いた作品を単元の最後に提出して終わりになっていないか？

→作品を改善して学習に生かす という評価の在り方が児童の学習改善に生かせる。

評価・改善を教師が一方的に行うのではなく、チェックリストと照らし合わせて児童自身が行っていく手立てもある。

III 評価の具体

◎主体的に学習に取り組む態度の評価方法

知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

→知識・技能、思考判断表現力を獲得する過程で身に付くもの。

どの力と結びついているのか意識することが大切。

粘り強い取り組みを行おうとする側面

自らの学習を調整しようとする側面

どう評価するのか…ノート、レポート等の記述（ふりかえりも有効）、授業中の発言、行動観察、自己評価や相互評価の状況等

【評価基準の設定】

A 評価…評価基準に照らし、児童生徒が実現している学習状況が質的な高まりや深まりをもっていると想定される場合。（質的な多管理や深まりは多様に想定される）

→社会生活でも活用できる、汎用的な視点が生まれている等、想定するのは教師